

開講日	2023年秋期 水曜日 18:30-20:00	講義場所	研究棟11階 講義室A
コースディレクター	名古屋市立大学医学研究科 新生児・小児学分野 教授 齊藤 伸治		

科目概要 および 期待される 成果	小児医療とは子どもの症状・病気に対して適切な処置を行いながら心身の健康をサポートするものです。小児医療に携わるにあたり、多岐にわたる幅広い知識と対応の能力が必要になってきます。日本の出生数は減少する一方、医療が大きく進歩したこともあり、新生児から思春期まで様々な病気や問題を抱える子どもの数は多くなりました。その中には感染症・アレルギー・小児救急だけでなく、心身症や発達障がい、児童虐待といった発達・心理的支援が必要なものまで広く含まれます。小児医療に対する社会的需要は非常に高く、多くの人が現場チームへ参加することが望まれています。本講座では、小児医療の各分野で現在活躍されている方々を講師に迎え、最新の知見を含めた小児医療の実際を学んでいただきたいと思います。
目標とする 資格	将来、小児領域の資格看護師(小児看護専門看護師、小児プライマリケア認定看護師、新生児集中ケア認定看護師)を目指す方や、NCPR(日本周産期・新生児医学会 新生児蘇生法)インストラクター・修了認定を目標にされる方。もちろん、子どもたちの医療現場に興味を持たれている方であれば、現在の小児医療の実際を知る・振り返るために役立つ内容が網羅されています。

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開催日	講師(所属)
アレルギー	1	医療スタッフが活躍する小児アレルギー診療最前線	小児アレルギー分野の3大疾患である「食物アレルギー・アトピー性皮膚炎・気管支喘息」の最新管理法を一気に学びます。また「看護師・薬剤師・栄養士」の協働が欠かせない分野です。アレルギー指導の専門資格である「小児アレルギーエデュケーター・アレルギー疾患療養指導士」を有する専門看護師による実際の患者支援も学びます。「素敵な学びなおし」の機会になりました幸いです。	9月6日	①谷田寿志(名古屋市立大学医学部附属東部医療センター、助教) ②柏原一水(聖霊病院、看護師)
神経	2	けいれんからてんかん・脳症まで	熱性けいれんなど小児のけいれん・意識障害は身近でよく遭遇します。時にけいれんが重積したり、脳症であったり対応に難渋することもあります。本講義では熱性けいれんからてんかん・脳症まで、初期対応から管理法を中心に最新の知見を交えて学びます。	9月13日	根岸豊(名古屋市立大学、助教)
腎泌尿器	3	学校検尿から見つかる疾患、見つけにくい疾患	すべての小児は健診時に尿検査を行っています。学校検尿で見つかる疾患は慢性腎炎が多く、最近では治療成績が良くなっています。一方で、先天性腎疾患など慢性腎不全になる小児の代表的な疾患を見つければ学校検尿では不十分な現状です。この問題を解決するために小児腎臓専門医がどのような方策を立て取り組んでいるかについて解説していただきます。我が国で出生したすべての赤ちゃんに検査される新生児マスキングから低身長、そして糖尿病や甲状腺疾患など、身近で関わる小児内分泌疾患は意外と多いものです。この講義では、小児内分泌疾患の概要と管理方法について学びます。	9月20日	後藤芳充(日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院、部長)
内分泌	4	身近な小児内分泌疾患	出産・出生は人生で最大のイベントであり、同時に最も危険な瞬間です。全ての新生児が生後元気に過ごすことができるように、出生直後の新生児の対応は国際的に標準化されてきました。ここでは、我が国における標準的な新生児蘇生法であるNCPRの最新版を習得します。小児の心疾患は先天性のものが多く、その複雑さから苦手とする医療者は多いです。本講義では先天性心疾患の概要とその対応方法を学びます。治療として薬剤をどのように使用するのか？酸素使用は禁忌？SpO2値はどれくらいで管理するのか？などの疑問にも解説します。また、重篤な不整脈に対して用いる除細動器の使用法も習得します。	9月27日	青山幸平(名古屋市立大学、助教)
新生児①	5	新生児蘇生法最新バージョン	近年メディアの効果もありNICU(新生児集中治療室)における新生児医療は知られるようになってきました。ここでは早産児の実際の医療を中心に、NICUという特別な環境下における母子愛着形成支援などサポート方法も含めて新生児医療現場の最前線を知っていただきます。	10月4日	加藤文典(名古屋市立大学医学部附属西部医療センター、准教授)
循環器	6	苦手な小児心疾患を克服する	救急外来(ER)に来院する小児は非常に多いです。その中には小児特有のケースも多岐にわたり遭遇します(例:重症感染症から事故、異物誤飲、外傷、急変など)。本講義ではそれらの概要と初期対応について、そして小児における心肺蘇生法(CPR)も含めてわかりやすく解説します。	10月11日	鈴木一孝(名古屋市立大学、助教)
新生児②	7	早産児の医療最前線	COVID-19は小児においても疾患自体だけでなく、日常生活における発育、精神面にも大きな問題になりました。ここでは小児特有のCOVID-19について最新の知見を第一線の現場医師から学びます。さらに、最近小児医療でも重要視されているアドボカシー(子どもが意見や考えを表明できるようにサポートすること)についても話していただきます。	10月18日	神農英雄(名古屋市立大学、助教)
救急	8	小児ER初期対応	小児医療に携わる中で先天異常・染色体異常に遭遇することは比較的多く、その特性を理解することは大切です。出生時からみることの多い染色体異常、先天異常・症候群の概要について、特徴や長期的な管理方法について学びます。また、近年注目されているNIPTなどの出生前検査についても紹介します。	10月25日	今井一徳(名古屋市立大学医学部附属東部医療センター、講師)
COVID-19	9	①小児COVID-19 up to date, ②小児医療におけるアドボカシー	近年の小児医療は予防接種などの普及により感染症は減少し、自閉スペクトラム症(ASD)、注意欠如多動症(ADHD)、限局性学習症(SLD)をはじめとした発達障害の管理・サポートが求められています。これら発達障害の特徴を理解し、育児のポイント、支援の内容、就学時の問題や教育現場での対応など療育について総合的に学びます。	11月1日	伊藤健太(あいち小児保健医療総合センター、医長)
先天異常	10	現場でよく診る先天異常・染色体異常	小児の虐待は年々増えており深刻な社会問題となっています。困難な環境から子どもを救い、虐待を無くしていくには多職種にわたる支援が必要です。本講義では児童相談所で子どもたちを守るために活躍されている先生から、虐待が疑われる児の特徴、対応法、その後の長期的ケアなど、実際の現場を中心に解説していただきます。	11月8日	横井暁子(名古屋市立大学、病院助教)
心身症	11	小児心身症のケア	小児の血液に関連する疾患は稀なものもあり、日々遭遇するものでない一方、見逃してはいけない疾患が多いことも事実です。本講義では、小児血液疾患について分かりやすく解説します。	11月15日	井口敏之(星ヶ丘マタニティ病院、副院長)
発達障害	12	発達障害児との関わり方	小児の血液に関連する疾患は稀なものもあり、日々遭遇するものでない一方、見逃してはいけない疾患が多いことも事実です。本講義では、小児血液疾患について分かりやすく解説します。	11月22日	大橋圭(名古屋市立大学、病院助教)
重症心身障がい	13	重症心身障がい児の管理	小児の虐待は年々増えており深刻な社会問題となっています。困難な環境から子どもを救い、虐待を無くしていくには多職種にわたる支援が必要です。本講義では児童相談所で子どもたちを守るために活躍されている先生から、虐待が疑われる児の特徴、対応法、その後の長期的ケアなど、実際の現場を中心に解説していただきます。	11月29日	水野美穂子(にじいろのいえ、理事長)
虐待	14	虐待から小児を救うために	小児の血液に関連する疾患は稀なものもあり、日々遭遇するものでない一方、見逃してはいけない疾患が多いことも事実です。本講義では、小児血液疾患について分かりやすく解説します。	12月6日	丸山洋子(名古屋中央児童相談所)
血液	15	小児の血液疾患	小児の血液に関連する疾患は稀なものもあり、日々遭遇するものでない一方、見逃してはいけない疾患が多いことも事実です。本講義では、小児血液疾患について分かりやすく解説します。	12月13日	亀井美智(名古屋市立大学、助教)